



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.18  
令和6年2月2日  
文責：校長 福島

## ホンモノに出会う



インフルエンザが流行っていますが、コロナ禍が明け学校にも人の交流が戻ってきました。

1月15日に、本校ホームページの縄跳び動画のモデルをしてくださっている小田知幸さんが来校し、実演と子供たちへの指導をしてくれました。そもそも小田さんとの出会いは、昨年度、私が体力育成部に縄跳びカードを渡して「この技すべての動画をつくってほしい」という無茶なお願いをしたことがきっかけでした。部長の平塚さんと副部長の大川さんが知り合いの知り合いである小田さんを見つけてくれたのです。今回もお二人の熱い思いで来校が実現しました。

小田さんの優しい指導とスーパープレイに、子供たちはあこがれの眼差しで食い入るよう見入っていました。終了後には自分の縄跳びのグリップにサインをもらう子供もいました。きっとわくわくして縄跳びに取り組んでいることでしょう。

1月25・26日には、4年生のキャリア教育を行いました。恒例になりましたが、おやじの会の協力により本年度も総勢18名の様々な職業の大人から「働く」ことについて話を聞くことができました。自分の仕事にプライドをもって話をされる大人、とってもかっこいいです。話の内容も素晴らしかったですが、熱く語るその姿に子ども達はあこがれを感じたのではないのでしょうか。女子プロサッカーチーム「アンクラス」の選手にはやはりサインを求めて群がっていました。4年生のキャリア教育、本校自慢の学びです。

最近はやりの教育用語に「オーセンティックな学び」というものがあります。学校での学びが学校の中で終わるのではなく、現実味があり社会と直接つながっていることを意味します。子供をわくわくさせるためには、「オーセンティックな学び」が一つのヒントです。

ホンモノに出会うということは最もオーセンティックな学びとなります。そして、このような学びがコミュニティ・スクールの取組として生まれていることを誇りに思います。